



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

叡智が世界をつなぐ

資料 1

認証評価について

～評価担当者としての所感～

中央教育審議会大学分科会将来構想部会
制度・教育改革ワーキンググループ(第5回)

上智大学法学部 教授 矢島 基美

目次

1. はじめに
2. 評価者について
3. 評価内容について
4. 評価サイクルについて
5. むすびにかえて



1. はじめに

- お話しする立場
- お話しする内容

2. 評価者について

●「ピア・レビュー」によること

－そのメリット

- ① 認証評価の理解の深化
- ② 評価者自身が所属する大学の振り返り

－そのデメリット

- ① 認証評価経験の相違や向き不向き
- ② 認証評価嫌い、認証評価離れ
- ③ 仕事の集中

3. 評価内容について

- 統一性・平準性の確保
- 形式的なものに流れがちになる傾向
 - － 本質的な課題の指摘や改善につなげる評価に至りにくい
 - － 帳尻合わせのやり取りに終始する場合も

3. 評価内容について — 書面評価(1)

● 定型化・様式化

— 大項目の設定の仕方

- ① 経年変化が少ない項目・・・「理念・目的」「教員・教員組織」など
→ 認証評価の都度、必要か
- ② 専門性の高い項目・・・「財務」など
→ 認証評価とわけられないか

— 個別の評価項目の取扱い方

- ① 法令要件に関わる項目(基盤評価)・・・「在籍者数」「教員数」など
→ 毎年度の報告・公表が必須 = 常に対象とする必要性が乏しい
- ② 達成度に関わる項目(達成度評価)・・・当該大学の目標や課題が評価の前提
→ 統一的な基準で優劣をつけるものではない = 「適合」にも幅がある

3. 評価内容について — 書面評価(2)

●膨大な負荷

- 膨大かつ詳細な根拠資料が必要
- 再提出・補充提出が求められるケースが多い

●評価指標の妥当性

- 達成度の数値化？
 - 数値化が可能か、意味があるか
 - 能力・スキルが出口のみで測られる傾向

3. 評価内容について — 実地調査

- 足を運ぶだけの意義
- 限られた日数と時間による実地調査
 - 実情の把握が不十分
 - 本音の議論に至らない
- 日程調整の困難さ
 - 調査対象・内容の制約が発生
 - 評価者の負荷（休講せざるを得ないケースも）

4. 評価サイクルについて

● サイクルの長期間化の効用

- 認証評価を受ける費用は軽減できる
- 労力は軽減できても、自己点検評価は常に続くため、さほどの違いにはならない
- 各種認証評価を併合することはメリットが大きい

例) 専門分野別(専門職大学院)認証評価を
機関別認証評価の際に付加的に実施

5. むすびにかえて

- 認証評価疲れの打開策
 - － 各種制度における機能的棲み分けの再検討
 - － 教育の特性とその評価のあり方



叡智が世界をつなぐ



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY